

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年1月16日

1. 職名・氏名 准教授 渡慶次 力

2. 学位 学位 博士(理学)、専門分野 水産海洋学、授与機関 九州大学、授与年 2005年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 水産増養殖学概論（2単位、毎年開講）2年次 1コマ（オムニバス）
②内容・ねらい 増殖と養殖産業において ICT や IoT などを活用した事例を知ってもらう事を目的に講義した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、学生に対して GC にて1コマ当たり3つ程度の質問をし、回答の集計結果をその場で共有することで、学生全員が参加できる双方型の講義を心がけた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 増養殖統計学Ⅰ（生物資源統計学）（2単位、毎年開講）2～3年次 15コマ中の8コマ担当
②内容・ねらい 増養殖に関する研究や技術開発・各種分析・調査の現場において、適切なデータ採取とそのデータ解析を、実際に使いながら、その基礎知識とツールとして使える実践的に学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、学生に対して GC にて1コマ当たり3つ程度の質問をし、回答の集計結果をその場で共有することで、学生全員が参加できる双方型の講義を心がけた。さらに、講義のみならず、Excel を実際に使って、ツールとして統計学が使えるように心がけた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 漁業制度論（2単位、毎年開講）2年次 15コマ
②内容・ねらい 日本の漁業権、許可漁業など各種の漁業制度について、その内容や特色等を学習する。水産物流通を理解し、内容を説明できる素養を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、学生に対して GC にて1コマ当たり3つ程度の質問をし、回答の集計結果をその場で共有することで、学生全員が参加できる双方型の講義を心がけた。1コマ毎の講義後には小テストを課すことで、講義内容の定着を図った。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 水産物流通論（食品流通論）（1～2単位、毎年開講）2年次 8コマ
②内容・ねらい 水産物流通を理解し、内容を説明できる素養を身につけることを目的とした。日本および世界の食料をめぐる状況、水産物に関する流通組織の役割、流通の特色を説明した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義では、学生に対して GC にて1コマ当たり3つ程度の質問をし、回答の集計結果をその場で共有することで、学生全員が参加できる双方型の講義を心がけた。1コマ毎の講義後には小テストを課すことで、講義内容の定着を図った。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 専門科学英語（2 単位、毎年開講）3 年次 15 コマ
②内容・ねらい 分属した研究室関連分野における英語で書かれた書籍や文献を購読し、基本的な専門用語を習得する。内容を適切に理解し、国際的に通用する外国語によるコミュニケーション能力の基礎を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 科学論文を理解するために、科学論文の書き方の本を輪読して、科学英語の構造が学んだ上で、すでに卒業研究に向けて関係する英語の論文を各自パワーポイントにまとめて発表することで、英語論文の内容を理解し、かつ英語運用の基礎を身につけるようにした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 養殖インターンシップⅡ（1 単位、毎年開講）3 年次
②内容・ねらい 養殖インターンシップⅡでは東南アジア漁業開発センターの養殖部局（SEAFDEC AQD）において現地の養殖対象種に関する実習と講義を受講して、世界の養殖技術の取得をめざす。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義や実習における翻訳等をしながら、学生が自主的に学べるように配慮して、より深いインターンシップになるように心がけた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 水産物流通演習（1 単位、毎年開講）3 年次
②内容・ねらい 調査により現場を体感し、水産物流通の実態を理解し、資源の利用にかかわる社会的課題について考察する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 調査前に水産物流通の講義を行った上で、調査により現場を体感し、レポートにまとめる事で、水産物流通の実態を理解するようにした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋生物資源学フィールド演習（2 単位、毎年開講）1 年次 3 コマ
②内容・ねらい 大学での学習に必要なスキルを身につけ、講義や施設見学などを通じて海洋生物資源学部における学習内容とその意義を考える。各自で課題研究に取り組む。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各自で取り組む課題研究のまとめた発表スライドの指導と、発表内容に対する採点のみならず、できるだけコメントするようにし、教育効果が高まるようにした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 養殖学実習Ⅱ（2 単位、毎年開講）3 年次 6 コマ
②内容・ねらい 生活史を通じた養殖での課題を実際に体験して理解し、問題点の解決手段を思考する能力を身につける。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 元長野県飯田市長と全国漁業就業者確保育成センターの馬上事務局長をゲストスピーカーに招き、地域活性化と漁業担い手に関する複数テーマをグループディスカッション等を通して学べるように工夫した。 【ゲストスピーカー2名】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 増養殖環境学実験（1 単位、毎年開講）3 年次 6 コマ

②内容・ねらい
養殖場環境の特性を理解し、環境評価を行うための分析技術の仕組みを論理的に理解し、それぞれの分析を実行できること。また、得られた結果を客観的に分析し評価と対応策を思考できるようにする
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
福井県大調査船セリオラ若狭高校に乗船して、水温・塩分などの牡蠣養殖場の海洋環境データを収集した後、得られたデータを図化するプログラムを学び、図化した結果から海洋構造を概説し、理解を深められるように工夫した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
基礎演習（1単位、毎年開講）3年次 15コマ
②内容・ねらい
卒論テーマに関係する論文を講読し、その概要をスライドにまとめて口頭で発表し、その質疑応答を通じて、各研究分野における研究課題や研究手法に関する理解を深めた。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
演習では、できるだけ学生同士でディスカッションすることで、研究に必要な議論する力を身につけてもらうよう意識した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
専攻演習（2単位、毎年開講）4年次 通年
②内容・ねらい
卒業研究と関連する文献を講読し、その概要をスライドにまとめて口頭で発表し、その質疑応答を通じて、各研究分野における研究課題や研究手法に関する理解を深めた。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
演習では、できるだけ学生同士でディスカッションすることで、研究に必要な議論する力を身につけてもらうよう意識した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
卒業論文（8単位、毎年開講）4年次 通年
②内容・ねらい
3名の学生を指導し、研究成果を卒業論文発表会で口頭発表できるスライドや卒業論文の取りまとめに関する指導をした。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
毎週1回は、研究に進捗状況を確認し、助言を行うとともに、随時、具体的な解析方法や取りまとめの方法などを指導した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
海洋情報科学・社会科学（2単位、毎年開講）大学院1・2年次 5コマ（オムニバス）
②内容・ねらい
海洋情報科学・社会科学の基礎となる、海洋ゲノミクス、動物情報工学、水産経済、スマート水産業についての知識を修得し、情報科学のおよび社会科学に考察する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
日本をとりまく海上輸送、利用可能な海洋資源の状況など海洋社会学的なマクロな視点を学べるような講義を行い、海洋情報科学・社会科学の幅広い基礎的知見を学んでもらうように心がけた。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
海洋情報科学・社会科学専攻演習Ⅰ・Ⅱ（各2単位、毎年開講）大学院1・2年次

②内容・ねらい 海洋に関する産業の実態やその意義，漁村社会，および環境を理解すると共に，それら进行分析する手法を修得し、プレゼンテーションで説明し、議論ができるようになる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 演習では、できるだけ学生同士でディスカッションすることで、研究で必要な議論する力を身につけてもらうよう意識した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 海洋情報科学・社会科学専攻実習Ⅰ・Ⅱ（各４単位、毎年開講）大学院１・２年次
②内容・ねらい 海洋に関する社会や産業，環境に関する調査を実行し，調査結果や統計などの分析を行うことを通じて，研究能力の他，プレゼンテーションやディスカッションの能力を高める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎週１回は、研究に進捗状況を確認し、助言を行うとともに、随時、具体的な解析方法や取りまとめる方法などを指導した。
(2)その他の教育活動 ・ 国立大学法人愛媛大学工学部非常勤講師 地球環境学（２単位、毎年開講）１年次２コマ 第８回「海洋の生態と水産資源」と第９回「水産資源管理～日本と世界の資源管理～」を担当

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等	【11件】
*前川 龍之介・元林裕仁・荒井 遼・<u>渡慶次 力</u>，福井県底曳網漁船の操業日誌を用いたズワイガニ稚ガニ漁獲予測モデルの開発，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（口頭発表） *出村圭一・井上海斗・松田航季・<u>渡慶次 力</u>，日向灘におけるシラス漁獲の変動要因，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） *山本冨夏・前川 龍之介・元林裕仁・<u>渡慶次 力</u>，漁業情報を用いた若狭湾のズワイガニ資源量推定の試み，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） *石井 昂・井上海斗・松田航季・<u>渡慶次 力</u>，日向灘における浮魚漁場形成の環境要因，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） *竹下 藍佑未・<u>渡慶次 力</u>，福井県小浜市の漁家民宿における宿泊者の経年変化，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） *石田律貴・<u>渡慶次 力</u>，福井県漁家民宿におけるインバウンドの実態 2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） *辻村咲里・<u>渡慶次 力</u>，福井県高浜町の海鮮食堂における利用者の特徴，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） 山田拓海・兼田淳史・<u>渡慶次 力</u>・梶原大郁・福智隆史，若狭湾東部の定置網漁場における近年の流れの変化(Ⅱ)，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） 横川将太・兼田淳史・<u>渡慶次 力</u>・藤井智史・梶原大郁，若狭湾で開始された短波海洋レーダによる流れと波高の計測，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） 中村天音・朱 妍卉・伊東隆臣・芳井祐友・喜屋武 樹・入野浩之・<u>渡慶次 力</u>・南 憲吏・宮下和士，日本周辺海域におけるジンベエザメの潜水行動の解明，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表） 八木敬弘・余 泽庶・黄國成・井上海斗・松田航季・<u>渡慶次 力</u>・伊藤進一，日向灘における前線構造：小型浮魚類環境 DNA 分布との関係解明に向けて，2025 年度日本海洋学会秋季大会，2025.11.1，福井県国際交流会館（福井市）（ポスター発表）	
⑤その他の公表実績	
*<u>渡慶次 力</u>，ICT が拓く水産資源管理の未来～豊かな海を次世代へ～，KOBE 文教区講座「魚講」，2025.1.21，神戸市（ミント神戸）（口頭発表） *<u>渡慶次 力</u>・笠井亮秀・牧野光琢・桑村勝士，漁業者・市民が参加する沿岸域での水産海洋モニタリング．水産海洋研究,89(2),pp.117-128, 2025.5. *<u>渡慶次 力</u>，漁業者参加の新たな水産資源調査のあり方．水産振興 ONLINE,pp.117-128, 2025.10. *<u>渡慶次 力</u>，Delury 法による若狭湾のズワイガニ資源量の推定．令和 6 年度九州大学応用力学研究所共同利用研究成果報告,28 号，pp.69-70, 2025.3. *<u>渡慶次 力</u>，私の学部・研究室の紹介 水産情報解析学研究室，海洋調査，161 号,pp.41-44,2025.7.	

*渡慶次 力, ORNIS(株)海洋レーダーの展開, 2025 年度瀬戸内海水産環境研究集会, 2025.8.25, 松山市 (愛媛大学) (口頭発表)

山本冴夏・前川 龍之介・元林裕仁・渡慶次 力, GPS データからみる若狭湾におけるズワイガニ操業の特徴, 2025 年度瀬戸内海水産環境研究集会, 2025.8.25, 松山市 (愛媛大学) (口頭発表)

石井 昂・井上海斗・松田航季・渡慶次 力, 漁船 GPS データと海洋環境データを用いたサバ類・イワシ類の漁場形成要因の解明, 2025 年度瀬戸内海水産環境研究集会, 2025.8.25, 松山市 (愛媛大学) (口頭発表)

*渡慶次 力, グループワーク話題提供～海業研究の取り組み、皆で議論する事の大切さ～, 第 2 回海業推進全国サミット in 高浜町, 2025.11.12, 高浜町 (高浜町文化会館) (口頭発表)

山本冴夏・前川 龍之介・元林裕仁・渡慶次 力, GPS データからみる若狭湾におけるズワイガニ操業の特徴, 九州大学応用力学研究所共同利用研究「若狭湾における定置網漁業及び底曳網漁業の漁場環境に関する研究」, 2025.12.5, 春日市 (九州大学) (口頭発表)

山本冴夏・前川 龍之介・元林裕仁・渡慶次 力, GPS データからみる若狭湾におけるズワイガニ操業の特徴, 九州大学応用力学研究所共同利用研究「若狭湾における定置網漁業及び底曳網漁業の漁場環境に関する研究」, 2025.12.5, 春日市 (九州大学) (口頭発表)

前川龍之介・元林裕仁・荒井遼・渡慶次 力, 若狭湾におけるズワイガニ稚ガニの漁獲予測モデルの開発, 九州大学応用力学研究所共同利用研究「若狭湾における定置網漁業及び底曳網漁業の漁場環境に関する研究」, 2025.12.5, 春日市 (九州大学) (口頭発表)

出村圭一・井上海斗・松田航季・渡慶次 力, 日向灘におけるシラス漁獲の変動要因, 第 3 回 香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 2025.12.25, 三木町 (香川大学農学部) (口頭発表)

山取篤弥・渡慶次 力, 北陸新幹線福井開業による福井県魚価の変動特性, 第 3 回 香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 2025.12.25, 三木町 (香川大学農学部) (口頭発表)

前川龍之介・元林裕仁・荒井遼・渡慶次 力, 若狭湾におけるズワイガニ稚ガニの漁獲予測モデルの開発, 第 3 回 香川大学瀬戸内圏研究センター・沿岸海洋研究集会, 2025.12.25, 三木町 (香川大学農学部) (口頭発表)

【15 本】

(2) 科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

科研費基盤研究 (C) 一般「日本海における沿岸資源漁獲量の長期的な時空間変動の特性と海洋環境との関係解明 (研究代表者)」

798 千円 (2025 年度)

科研費基盤研究 (C) 一般「若狭湾におけるズワイガニ漁場と海洋環境との関係解明 (研究代表者)」

700 千円 (2025 年度)

一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所 令和 7 年度研究助成「漁家民宿を起点とした海業振興施策の提案 (研究代表者)」

1,000 千円 (2025 年度)

福井県水産試験場受託研究「操業日誌を利用したズワイガニ資源量推定技術の開発 (研究代表者)」

1,350 千円 (2025 年度)

ORNIS 株式会社共同研究「海洋レーダー情報の海洋産業への利活用に関する研究 (研究代表者)」

3,760 千円 (2022～2025 年度)

高浜町水産振興協議会共同研究「ハーバルフィッシュの効果的な販売広報施策の検討 (研究代表者)」

361 千円 (2025 年度)

宮崎県水産試験場共同研究「日向灘におけるまき網漁場と流動場との関係解明 (研究代表者)」

378 千円（2025 年度） 九州大学応用力学研究所 2023 年度共同利用研究共同利用・共同研究「若狭湾における定置網漁業及び底曳網漁業の漁場環境に関する研究（研究代表者）」 238 千円（2025 年度） 【学内】 戦略的課題研究推進支援「福井県における効果的な海業施策の提案（研究代表者）」 400 千円（2025 年度）
(3)特許等取得
(4)学会活動等
理事（一般社団法人水産海洋学会） 2022.4～現在に至る 評議員（一般社団法人水産海洋学会） 2022.4～現在に至る 事業委員会・副委員長（一般社団法人水産海洋学会） 2023.4～現在に至る 水産環境保全委員会・委員（公益社団法人水産学会） 2024.3～現在に至る 日本海洋学会沿岸海洋研究会・事業部会（公益社団法人水産学会） 2025.4～現在に至る 水産海洋学会・水産海洋シンポジウム「漁業者・市民が参加する沿岸域での水産海洋モニタリング」筆頭コンビナー（水産海洋学会、東京海洋大学 2025.3.15）

5. 地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会

スマート水産業普及推進事業審査委員（水産庁），委員，2024.6～2026.3

我が国周辺の水産資源と漁業の構造変化に関する調査（水産庁），検討委員，2025.4～2026.3

福井県水産バリューチェーン改善協議会（福井県），アドバイザー，2023.8～現在に至る

令和7年度 高浜町マリンビジョン策定委員会（高浜町）委員長，2025.4～2026.3

ORNIS 株式会社，技術顧問，2022.9～現在に至る

オーシャンソリューションテクノロジー株式会社，技術顧問，2025.8～2026.3

②国・地方公共団体等の調査受託等

受託研究「操業日誌を利用したズワイガニ資源量推定技術の開発（福井県水産試験場）」，

研究代表者，2023.4～2025.3

受託研究「日向灘におけるまき網漁場と流動場との関係解明（宮崎県水産試験場）」，

研究代表者，2023.4～2025.3

共同研究「ハーバルフィッシュプロジェクトにおける高浜町の効果的な販売広報施策の検討

（高浜町水産振興協議会）」，研究代表者，2023.4～2025.3

共同研究「海洋レーダー情報の海洋産業への利活用に関する研究（ORNIS 株式会社）」，

研究代表者，2023.4～2025.3

③公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講

④その他

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

【全学委員会】

【学部委員会】

学士支援委員 2025.4～現在に至る

【学科委員会】

4年生クラス副担人 2023.4～現在に至る

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など